

平成 27 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名	英語総合 A1	担当教員	菅原 崇		
学年学科	専攻科1年 全専攻	前期	必修	1単位(学修)	
学習・教育目標	A-1 10% C-2 90%	JABEE 基準 1 (1) : (a) (f)			
授業の目標と期待される効果： TOEIC300点以上獲得を目標に、e-learning 教材『ALC NetAcademy2』を活用し、英文法および語彙の知識を深め、英語コミュニケーション能力を高める。具体的には以下の項目の向上を目指す。 ①英文法の知識を深める ②語彙を増やす ③リーディング能力を高める ④ライティング能力を高める ⑤リスニング能力を高める		成績評価の方法： 期末試験 100点+小テスト・課題 100点 合計して得点率(%)で成績をつける。成績評価には、教室外学修の内容も含まれる。 達成度評価の基準： 授業にて行った TOEIC 対策の問題と同レベルの問題を試験で出題、6割以上の正答レベルまで達していること。 ①コミュニケーションに必要な英文法の知識の獲得の度合いを測定する試験で6割以上できる。 ②コミュニケーションに必要な語彙の知識の獲得の度合いを測定する試験で6割以上できる。 ③コミュニケーションに必要なリーディング能力の度合いを測定する試験で6割以上できる。 ④コミュニケーションに必要なライティング能力の度合いを測定する試験で6割以上できる。 ⑤コミュニケーションに必要なリスニング能力の度合いを測定する試験で6割以上できる。			
授業の進め方とアドバイス：辞書、リスニングに必要なイヤフォン、未知の単語熟語などをメモするノート（および筆記用具）を毎回必ず持参すること。持参しない場合は履修の資格なしとみなす。 授業中行った TOEIC 模擬問題の確認や単語の修得を家庭学習として毎回行い、次の授業に臨むこと。					
教科書および参考書：e-learning 教材『ALC NetAcademy2』 『新 TOEIC TEST 出る順で学ぶボキャブラリー900』（講談社） その他担当教員が適宜配布するプリント					
授業の概要と予定：前期		教室外学修		ALのレベル	
第 1 回：ガイダンス、TOEIC練習問題	これまでの学習範囲の総復習				
第 2 回：TOEIC練習問題解答ならび解説	これまでの学習範囲の総復習				
第 3 回：TOEIC(R)テスト演習No.1, 2	前回の学習内容の確認				
第 4 回：単語テスト	次回の授業範囲の下調べ		C		
第 5 回：TOEIC(R)テスト演習No.3, 4	前回の学習内容の確認				
第 6 回：TOEIC(R)テスト演習No.5, 6	前回の学習内容の確認				
第 7 回：単語テスト	次回の授業範囲の下調べ		C		
第 8 回：TOEIC(R)テスト演習No.7, 8	前回の学習内容の確認				
第 9 回：TOEIC 練習問題	これまでの学習範囲の総復習				
第 10 回：TOEIC練習問題解答ならび解説	これまでの学習範囲の総復習				
第 11 回：TOEIC(R)テスト演習No.9, 10	前回の学習内容の確認				
第 12 回：TOEIC(R)テスト演習No.11, 12	次回の授業範囲の下調べ				
第 13 回：単語テスト	前回の学習内容の確認		C		
第 14 回：TOEIC練習問題	これまでの学習範囲の総復習				
第 15 回：TOEIC 練習問題解答ならび解説	これまでの学習範囲の総復習				
期末試験					
第 16 回：フォローアップ（期末試験の解答の解説など）					

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	コミュニケーションに必要な英文法の知識の獲得の割合を測定する試験で8割以上できる。	コミュニケーションに必要な英文法の知識の獲得の割合を測定する試験で6割以上できる。	コミュニケーションに必要な英文法の知識の獲得の割合を測定する試験で6割未満である。
②	コミュニケーションに必要な語彙の知識の獲得の割合を測定する試験で8割以上できる。	コミュニケーションに必要な語彙の知識の獲得の割合を測定する試験で6割以上できる。	コミュニケーションに必要な語彙の知識の獲得の割合を測定する試験で6割未満である。
③	コミュニケーションに必要なリーディング能力の割合を測定する試験で8割以上できる。	コミュニケーションに必要なリーディング能力の割合を測定する試験で6割以上できる。	コミュニケーションに必要なリーディング能力の割合を測定する試験で6割未満である。
④	コミュニケーションに必要なライティング能力の割合を測定する試験で8割以上できる。	コミュニケーションに必要なライティング能力の割合を測定する試験で6割以上できる。	コミュニケーションに必要なライティング能力の割合を測定する試験で6割未満である。
①	コミュニケーションに必要な英文法の知識の獲得の割合を測定する試験で8割以上できる。	コミュニケーションに必要な英文法の知識の獲得の割合を測定する試験で6割以上できる。	コミュニケーションに必要な英文法の知識の獲得の割合を測定する試験で6割未満である。